＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間	９０分

・ひとつの歌に仮託して、言葉の習得と言葉の本性についての考えを示した随筆からの出題。
・本文の分量は昨年度よりも数行増加している。すべて記述説明であり、設問数も四問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度（14 行）に比べ 13 行とわずかに減少した。
・本文分量、記述分量ともに大きな変化はなく、総合的にみて、全体の難易度も、ほぼ例年並とみられる。
・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問四がなく、全四問の出題となっている。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　典 (作者)	奈倉　有里　『夕暮れに夜明けの歌を―文学を探しにロシアに行く』
頻出度合 ・的中等	なし
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
一	随筆	問一	記述式	標　準	傍線部の内容を説明する問題。（解答欄３行） 傍線部に至る内容をたどり、「幸福状態」の「特殊」さを「私」のありようと関連づけて説明する。
		問二	記述式	標　準	傍線部の心情を説明する問題。（解答欄２行） 「逃げ場がないような崖っぷち」という表現にどんな決意（決断）が現れているかを説明する。
		問三	記述式	標　準	傍線部の内容を説明する問題。（解答欄３行） 「新たに歩きはじめる」という表現を慎重にみて、何がどう更新されるのかをわかりやすく説明する。
		問四	記述式	標　準	傍線部の理由を説明する問題。（解答欄５行） 引用された歌の歌詞に「触れつつ」という指示があり、本文の趣旨を踏まえた説明が求められる。

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・一ではしばしば評論や随筆がとりあげられている。だが、いずれであっても、文章の主題や筆者の主張を全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
・設問のそれぞれがどのような意図をもっているか、その狙いを見極める訓練、その理解に応じた記述の練習を積み重ねておく必要がある。

© 河合塾　2024 年

＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間	90分

・芸術の本質的価値は、科学の普遍的な方法を援用することによって、破損の恐れが救われ、永遠性を保証されると述べたエッセイからの出題。
・問題文は比較的に読みやすいが、解答に必要な内容を過不足なく読み取り、解答欄に収まるようにまとめるのは容易ではない。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典 (作者)	『永遠への理想』(石原純)
頻出度合 ・的中等	なし
分　量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難　易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	随筆	問一	記述式	やや易	傍線部の理由説明問題。(解答欄2行) ※第1段落の内容を踏まえながら、解答欄に収まるように簡潔にまとめる。
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容説明問題。(解答欄3行) ※傍線部の表現に留意しながら、第1段落～第3段落の内容を踏まえて説明する。
		問三	記述式	標　準	傍線部の内容説明問題。(解答欄4行) ※第4段落以下文末までの本文の内容を踏まえ、「芸術」と「科学」の関わりを中心にまとめる。 ※答案のまとめ方に工夫がいる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・二は理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって、問題の水準は決して平易とはいえない。文理共通問題一のレベルに対応できるように学習しておきたい。
・文章のジャンルを問わず、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体から的確に把握するとともに、文脈を精確に理解する読解力とその内容を適切に説明する記述力が不可欠である。

© 河合塾　2024年

＜総括＞

出題数	現代文　2題・古文　1題	試験時間	90分

・近世の注釈書からの出題であった。(中世の歌人頓阿の歌集『草庵集』についての中世の注釈書『諺解』への本居宣長の批判)
・2023年度と同様、解答数は三つであった。
・設問構成は2023年度と同じ現代語訳一つと、説明問題二つであった。
・和歌が本文にあったが直接設問では問われなかった。

＜本文分析＞

大問番号	三
出　典 (作者)	『草庵集玉箒』(本居宣長)
頻出度合 ・的中等	稀
分　量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)約380字(前年約600字)
難　易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	注釈	問一	記述式	標準	内容説明問題。「いづくも」の「も」の並列に注目して、「里」を「端山」「奥山」と並べることがポイント。(解答欄2行)
		問二	記述式	やや難	「『実の理』と『作者の見る心』の具体的な内容を明らかにしつつ」という条件付きの説明問題。傍線部の後ろで展開される本居宣長の解説をまとめるのがポイント。(解答欄5行)
		問三	記述式	標準	「指示語と比喩の指す内容を明確にしつつ」という現代語訳問題。「ことわり」「よしなく」の訳がポイント。(解答欄2行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・中世・近世の随筆からの出題は、京大理系古文の一つの流れなので、随筆や歌論にも慣れておく必要がある。
・2022年度の出題を考えると、私家集の詞書や日記などの文章にも慣れておく必要がある。
・時には平安時代の作品も出題されているので、多様な時代・ジャンルの文章に慣れておこう。
・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
・本文全体を現代語訳できるかどうかが京大理系古文の根本である。現代語訳をする練習がいちばんに望まれる。
・今年は和歌が直接設問で問われなかったが、直接問われることもあるので、和歌の修辞、現代語訳、趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。

© 河合塾　2024年